



平成17年度春季全国大会フォーラム論文募集

主 題：土木分野における溶接最前線と将来を展望する

座 長：金 裕哲（大阪大学 接合科学研究所）

西岡敬治（阪神高速道路公団課長）

趣 旨：

メガからマイクロスケールの構造体を作製する場合、部材を組み立てる技術として、溶接・接合は必須である。土木構造物の中でも、橋梁に代表される重厚長大型鋼構造物の製作において、工場では溶接、現場はボルト接合が主流となっている。ところで、溶接技術は進化し続けており、土木分野において、現場溶接を採用しようとする試み、あるいは、採用せざるをえない状況が多々見受けられる。このような現状を見据え、溶接・接合をキーワードに、土木分野における橋梁および水圧鉄管建設の技術最前線を眺望する。一方、社会資本の代表である橋梁の現状を概観するに、架設後50年（設計寿命という説もある）を超える橋梁の増加や設計軸重、設計総重量の3倍にも及ぶ過積載車の通行など、橋梁を取り巻く環境は厳しく、建設当時の設計、製作施工そのものが、現在の実情にあったものか否か、不確実な点も少なからず見受けられる。当然の要求として、現橋梁の健全性評価および補修補強による長寿命化は必須の社会経済現象となってきている。

本フォーラムでは、土木分野における溶接・接合の最前線として、アーチ橋梁の架設において100%現場溶接

を採用するに至った経緯、橋梁の概要、克服すべき課題など、また、水圧鉄管建設においてHT100を採用するに至った経緯から施工までを紹介する。一方、社会資本である橋梁の現状、そして、モニタリング、維持保全、さらには、長寿命化に向けた課題など、広範囲な視野から議論する。

記

日 時：平成17年4月20日（水）～22日（金）

会 場：日本教育会館（東京）

申込方法：著者名、タイトル、概要（400字程度）、連絡先を明記した上、メール(jws-ym@kt.rim.or.jp)またはファックス（03-3253-3056）で溶接学会事務局へお申込み下さい。

申込締切日：平成16年10月31日

講演採否：お申込みいただいた講演の採否は直接申込者にお知らせ致します。

原稿締切日：平成17年2月1日

（採択された講演者には、所定の書式に従って作成した原稿を、平成17年2月1日までに提出していただきます。提出いただいた原稿は、溶接学会全国大会講演概要集No.76に掲載致します。なお、講演時間は、1件約15分～30分程度を予定しています。原稿作成・講演方法などの詳細は座長より連絡致します。）